

＜学校経営方針の重点＞
 1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進
 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価		分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性		
				教職員	保護者			評価	コメント			
1 学力の向上	基礎・基本を大切に、分かる授業を実現する。	言語活動を重視して基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、自ら学ぶ力を育てる。	言語活動を重視した授業を日常的に実施し、思考力・判断力・表現力を育てる。	A	0.0	36.8	B	今年度の成果を基に引き続き言語活動を重視した授業を行っていく。	B	自分の考えを述べる話の形、メモを見ながら自分の意見を言えるようになってきたことを引き続き取り組んでください。	これから校内研究のテーマでもあるコミュニケーション力を育てる指導法の工夫を授業研究を通して行っていく。	
				B	64.7	55.4						
				C	35.3	7.3						
				D	0.0	0.5						
			重要教科を国語と算数に定め、授業改善プランを活用し、基礎学力と学び合う力を育て、より広い応用力を付ける取組を実践する。	A	0.0	38.3	B	少人数指導やコミュニケーション力を育てる授業を行ってきたことで基礎学力、学び合う力は育ってきているが、応用力は育っていない。	基礎的な学習である体験的学習やコミュニケーション力を育てる学習を通して応用力を生かした学習に力を入れていく。	B	国語・算数の習熟度別の工夫や読み書き、書いてあることの意味が理解できるように、これからも工夫をしてください。	これから算数で習熟度別の授業を行い基礎学力、応用力を育てていく。校内研究のテーマでもあるコミュニケーション力を育てる指導法の工夫を行うことで学び合う力を育てていく。
				B	56.3	53.4						
				C	43.8	8.3						
				D	0.0	0.0						
			学年の発達段階を考慮した学習課題(宿題)を出し、学ぶ意欲を高めるとともに家庭学習の習慣化を図る。	A	33.3	45.6	B	宿題への取り組み方を考えると前向きに取り組んでいる児童、家庭がほとんどである。但し、サポートが必要な児童、家庭があることも事実なので、家庭への声掛けを続けていく。	家庭学習の仕方や質についてのことを折にふれて指導する。(保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。)	A	学年×10分を目安として、こつこつ習慣化できるようにすすめてください。	引き続き、全校で家庭学習の習慣化を図る。保護者会等も活用し、保護者への啓発も行う。また、家庭学習の質を上げるために予習・復習の重要性について、学級活動などで、指導していく。
				B	41.7	45.6						
				C	25.0	7.3						
				D	0.0	1.6						
2 心の教育	思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実を図るとともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	強化月間を設け、校内外の人に気持ちの良い挨拶やていねいな言葉遣いができるようにする。	A	0.0	26.9	C	アンケートでは「だいたいよい」という結果が半数以上を占めていた。児童は教職員の挨拶に対し返す形で挨拶をすることはできるが、自分から進んで挨拶できる児童はまだ少ない。場に応じた丁寧な言葉遣いにはまだ課題がある。	B	自分から挨拶や正しい言葉遣いができるように家庭との連携も続けていってほしい。	強化月間での指導だけでなく、家庭と連携しながら、日頃から継続的な指導を重ねていく。言葉遣いについては、気が付いたときにその場ですぐに指導を行う。また、職員室や事務室などでの話し方(話し型)を入口に掲示する。	
				B	55.0	58.5						
				C	45.0	13.0						
				D	0.0	1.6						
			生活指導月目標を基に共通実践を行い、きまり遵守、挨拶・返事などきちんとできるように規範意識を育む。	A	0.0	31.1	B	生活指導月目標を基に共通実践を行うことで、学校のきまりを守ることはおおむねできている。しかし、廊下歩行については守ることができない児童が多い。また、吹上スタンダードの持ち物が少し乱れている。	引き続き、生活指導月目標を基に共通実践を行う。また、月目標に関わらず日頃から廊下歩行について継続的な指導を行う。持ち物については、教職員で再確認すると共に、各学級で持ち物の確認、記名の徹底をする。	B	見守って指導をしていってほしい。	引き続き、生活指導、月目標を基に共通実践を行う。また、月目標に関わらず日頃から廊下歩行について継続的な指導を行う。持ち物については、教職員で再確認すると共に、各学級で持ち物の確認、記名の徹底をする。
				B	75.0	53.9						
				C	25.0	14.5						
				D	0.0	0.5						
			日々の道徳の授業の目標を明確にし、道徳の時間を工夫し、つづやきノート等を活用して子供自身が自らを見つめ直すことができるようにする。	A	0.0	21.1	C	道徳の時間に使うワークシート等を随時持ち帰ることが少ないので、家庭には状況が伝わりにくい面もある。子供自身が自らを見つめ直しているかを判断するのは難しい。つづやきノート等の理解も進んでいない。	引き続き、めあてを明確にした授業を実施し、道徳の授業について家庭への啓発を進めていく。道徳授業地区公開講座ももう少し早い時期に実施することも考えていく。	C	道徳の時間はこうあるべきだということではなく、子供が感じたことを書いたり、子供の心を理解していくために、つづやきノートを使って理解していくために、これからも活用してほしい。	道徳の授業について、目標を明確にする。言語活動を重視した自己を振り返る時間を確保し、道徳的判断力・実践力を育成する。
				B	28.6	53.2						
				C	71.4	23.7						
				D	0.0	2.1						
3 健やかな体	心身ともに健康な体を育成する。	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身に健康的な体を育てる。	自らの生活習慣に関心をもたせ、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	0.0	33.2	B	大多数の児童が、朝食をしっかりと食べてきている。一方で、就寝時間が遅いことで生活リズムを崩している児童もいる。	B	睡眠不足からくる生活リズムの乱れがおきないように、引き続き家庭に声かけをしていってほしい。	十分な睡眠を取ることや生活リズムを整えることの大切さを、各学級で引き続き指導する。折に触れて保健指導も行う。また、保護者会や便りで保護者への協力を呼びかける。	
				B	94.4	56.0						
				C	0.0	10.9						
				D	5.6	0.0						
			食の教育全体計画に基づき、食習慣の重要性について指導し、意識を高める。また、給食時には、よく噛んで食べられるよう指導する。	A	0.0	29.0	C	しっかりと残さず食べられる児童もいるが、食べ物の好き嫌いが激しい児童も多い。食べず嫌いの児童もいる。	学級指導を続けるとともに、学級活動や家庭科などでバランスのよい食事の必要性について指導する。また、低学年のうちに栄養士を講師に招いた食育の授業を行っていく。	B	もぐもぐタイムの心がけと保護者への協力を引き続き行っていく。	各学級で、もぐもぐタイムには食べることに集中させる。また、低学年のうちに栄養士を講師に招いた食育の授業を行っていく。保護者への呼びかけを引き続き行っていく。
				B	41.2	61.1						
				C	52.9	9.3						
				D	5.9	0.5						
			外遊びを奨励していくことで、子供自身が意欲的に体力づくりに取り組める工夫をする。また、自らの体力や生活習慣に関心をもてるよう指導する。	A	17.6	39.4	B	外遊びを奨励することに加え、ボール、フリスビー、なわとびのジャンピングボードなど、休み時間にさまざまな用具を貸し出すことで、より多くの児童が進んで外で遊ぶようになった。	引き続き外遊びを奨励していく。また、なわとび週間、マラソン週間などの体力向上に向けて取り組みを継続していく。	A	教室に残る子供を見たら、外に遊びに行くよう引き続き行ってほしい。	引き続き外遊びを奨励していく。なわとび週間、マラソン週間などの体力向上に向けた取り組みも継続していく。
				B	70.6	50.8						
				C	11.8	8.8						
				D	0.0	1.0						
4 地域と共に	学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	ホームページや学校・学年・学級便りを工夫し、教育活動の様子を家庭・地域によくわかるように適切に伝える。	A	16.7	47.2	B	ホームページ、学校、学年・学級便りに関しては、おおむね良いという結果だといえる。	A	学校の活動の様子を細かく発信していると思う。	教育活動の様子を学校・学年・学級便り、ホームページで伝えることを継続していく。	
				B	55.6	47.2						
				C	22.2	10.9						
				D	5.6	0.0						
			地域の教育ボランティアやゲストティーチャーを積極的に取り入れたり、様々な人達と交流ができるようにする。	A	6.7	35.2	B	教職員の間では、活用し切れていないことが分かる。地域の人材の活用について、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に呼べるようにする。	コーディネーター役が必要になってくるのではないかと。また、保護者のボランティアは今後とも学年を超えての活用を図っていく。	B	さまざまなことに対して地域やPTAの協力が得られているので、地域の方の活用も広めてほしい。	地域の人材の活用について、さらに進められるように人材の整理を進めていく。そのために、今年度中に実施報告を取りまとめる。また、教育ボランティアやゲストティーチャーを必要な時に呼べるようにする。人材の整理を進めていく。
				B	46.7	52.3						
				C	46.7	12.4						
				D	0.0	0.0						
特色ある教育活動	小中一貫したカリキュラムのもと、連携教育を展開する。	小中一貫教育の体制をつくり指導の充実を図る。	組織の細分化を図り、さらに連携を深めて小中一貫教育の充実を図る。課題解決に向けて、具体的な取組を実践する。	A	0.0	20.7	B	取組や成果が保護者に伝わりやすい面がある。小中一貫教育について、さらに目に見える活動の形を考えていく必要がある。	B	中学との連携を通してさらに取組を継続してください。	小中一貫教育の組織を中心として、さらに目に見える活動の形を考えていき、引き続き、学校だよりやホームページ等を活用し、保護者へ小中合同の活動の様子を伝えていく。また、今後も小中での情報交換を密にし、さらに今年度の成果と課題を次年度に引継ぎ、小中の連携を深めていく。ランドデザインのさらなる周知徹底を進める。	
				B	81.3	61.7						
				C	18.8	16.1						
				D	0.0	1.0						
	児童が運動に親しみ、体力の向上に努められる組織的な学校体制をつくる。	学校行事を含む教育活動を通じ、組織的に体力の向上を図る。	体育指導や体育朝会の実施方法を工夫・充実させ、健康の増進・体力の向上を図り、運動の日常化に努めている。	A	0.0	38.3	B	体育の授業では、意欲的に活動する児童が多い。外遊びなど、運動の日常化にも繋がっていると考えられる。スポーツテストの結果から、全体的に持久力に課題があるといえる。	B	子供が意欲的に取り組めるように課題の工夫がなされている。	運動量の豊富な体育授業になるよう努める。また、なわとび週間やマラソン週間などを通して、持続的に体を動かすことに対する抵抗感をなくしていく。	
				B	88.2	49.2						
				C	11.8	12.4						
				D	0.0	0.0						